

# 国立劇場の再整備の方向性について（中間報告）（概要）

## 1. 国立劇場の現状

国立劇場は開場から53年が経過した中で、我が国の誇る伝統芸能の伝承と創造を行うとともに、インバウンド受入を含む文化観光拠点の機能強化、安全性とサービスの向上の両面から抜本的な改善が急務。

【概要】歌舞伎、文楽、雅楽など多様な伝統芸能を公開。

敷地：31,269㎡（9,500坪）（千代田区隼町）

主要施設：本館（大劇場・小劇場、26,567㎡、S41建設）、  
演芸場（2,516㎡、S54建設）、伝統芸能情報館、事務棟

## 2. 再整備にあたっての機能強化の観点

上野文部科学副大臣のもとで、関係省庁（※）によるPTを発足し、国立劇場の機能強化にあたり、観光・まちづくりなどとの連携を深める観点から検討し、以下の3点の重要性を指摘。

※文科省、文化庁、内閣官房、国土交通省、日本芸術文化振興会(国立劇場)

### (1) 伝統芸能の伝承と創造

芸能の伝承に必要な舞台環境を充実するとともに、新たな演出や、公的式典との併用など多くの用途に対応するための技術を取り入れた劇場とする。

伝統芸能の伝承者等の幅広い舞台芸術人材を養成する研修機能を充実する。



### (3) 周辺地域との調和等

景観や、劇場へのアプローチなど周辺環境に配慮し、地域の良好なイメージの継承を図りながら、持続的な発展に貢献する。



### (2) 文化観光拠点としての機能強化

皇居外苑、三の丸尚蔵館等の近隣の文化施設とともに、都心におけるインバウンド受入に貢献する機能を高める。

体験型展示や普及・発信機能を充実する。

○再整備にあたっては、  
高水準のユニバーサルデザインを導入し、伝統文化の発信拠点に相応しいデザインの施設とする。



## 3. 再整備の方向性

既存施設の大規模改修工事では、可変機構や高水準のユニバーサルデザインの導入など、上記2.のような機能強化に対応するのは困難であり、さらに伝統芸能の伝承と創造の中核的拠点としての機能を強化するとともに、国内外の人々の交流を生み出す空間となるには、建替えが適切と考える。また、文化観光拠点といった新たな機能を十分に持つには、「国立」の劇場であることを前提としつつ、民間事業者からの提案やノウハウに基づく要素を取り入れることを検討する。

## 4. 再整備スケジュール

休館期間は、技芸や技術等を途切れなく伝承するため可能な限り短くする。また、竣工時期については、国立劇場でこれまでも行われてきた公的式典において新劇場がその役割を果たすことを目途するとともに、著しい老朽化に早急に対応できるよう計画する。